ことわざ研究・談話室

ベンジャミン・フランクリン『貧しいリチャードの暦』のことわざめぐり（1）
～1733 年版『貧しいリチャードの暦』のことわざ分析～

林　幸子

１．はじめに

ブリタニカ百科事典において、Benjamin Franklin（1706-1790）は「アメリカの印刷業者、出版者、作家、発明家、科学者、外交官にして、建国の父の一人」[1] と紹介されているが、また別の顔として、アメリカ文学の流れの中では、アメリカン・ユーモアの特徴を具現化した最初の作家であると位置づけられている。[2] 彼のユーモアのセンスは *Benjamin Franklin's Autobiography*（『フランクリン自伝』）をはじめ多くの著作に散りばめられているが、ユーモリストとしてのフランクリンの面目躍如たる作品が全 26 編の *Poor Richard's Almanack*（『貧しいリチャードの暦』, 1733-1758）である。ことわざという観点からみても、フランクリン自身が「この暦を楽しめてしかも有益なものしようと最善を尽くした。・・・それ故に月ごとのカレンダーの間の余白をすべてことわざ的なもので埋めた（下線筆者）」（*Autobiography*、79）[3] と語っている通り、『貧しいリチャードの暦』はまさにユーモアセンス溢れることわざの宝庫である。

しかし、後世『フランクリン自伝』が繰り返し出版されているにもかかわらず、アメリカにおいても『貧しいリチャードの暦』の全編が書物として出版されることは稀で、*Poor Richard's Almanack* というタイトルであっても、実態は有名になった「ことわざ集」である場合が多い。日本においてはその傾向がさらに強く、『貧しいリチャードの暦』全２６編中、最も有名になった 1958 年版 *The Way to Wealth*（『富に至る道』）をもって『貧しいリチャードの暦』と紹介するものが多く、それ以外の情報は乏しい。[4]

そこで、最終的には『貧しいリチャードの暦』26 編のことわざの全体像の把握をめざし、本稿では、まず『貧しいリチャードの暦』の概要を紹介し、それが現在までどのような形で伝えられているか確認する。その上で、一年分の暦に含まれることわざ的なものを網羅的に取り出し、後世のことわざ辞典類におけるそれらについての記述を調べ、可能な限り『貧しいリチャードの暦』のことわざの特徴を考察したい。その第１弾として、初年度 1933 年版の暦を対象とする。

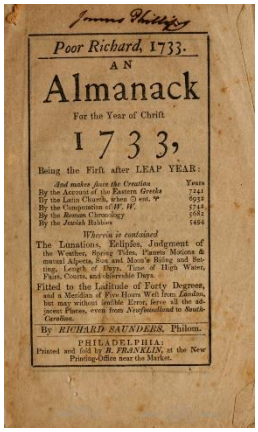
２．『貧しいリチャードの暦』とは？

英語圏での暦の歴史を振り返ると、英国では１６世紀後半から暦の印刷販売が始まり、1600 年代になると人気の出版物となったといわれている。アメリカ大陸では William

Pierce の *An Almanac Calculated for New England*（1639）が最も古い暦とされ、1700 年代には、フランクリンが『貧しいリチャードの暦』を出版したフィラデルフィアだけでも、５つの暦が流通していたという。どれも主に天気予報、月の満ち欠け、日の出と日の入りの時刻、道路状況、裁判開催の日付などで構成され、時に教訓的なあるいは文学的色合いのある一節も含まれていたようである。[5]

『貧しいリチャードの暦』に関しては多様なことわざのみが強調されているが、実は他の暦と同様に、気象情報や天文学的な事柄についての記述が暦のかなりな部分を占めている。日本においては、これまで『貧しいリチャードの暦』の全体像を紹介した文献が見当らないため、一例として 1733 年版の実物写真を参考に、まず暦全体の構成を説明する。[6]

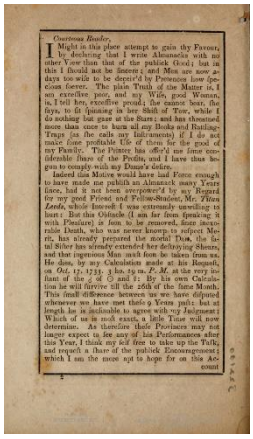
p.1



表紙

（タイトル、目次等）

p.2



読者へのメッセージ

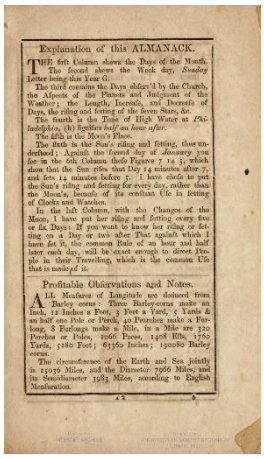
p.3

占星術

p.4

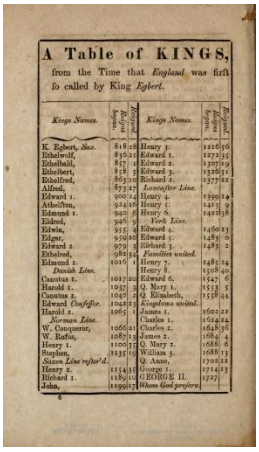
惑星の動き

p.5



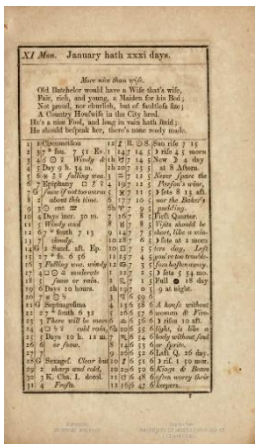
暦の読み方の説明

p.6



イングランド王の年譜

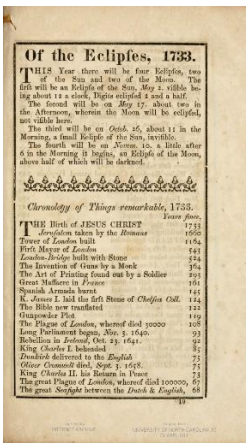
p.7-p.18



毎月のカレンダー

天気予報

p.19-p.24



日食情報、

裁判所開催日等

1733 年から 1747 年まで、毎年の暦は基本的に全 24 頁からなり、どの年も各頁の構成はほぼ同一で次の通りである。[7]

p.1: 表紙。タイトル、年号、出版社情報を含む。

p.2: 読者へのメッセージ。Courteous Reader で始まり、 R. SAUNDERS というサインで終わる。散文形式での読者への呼びかけ。

p.3: 占星術。12 星座による健康に関する占い。

p.4: 毎月の惑星の動き。惑星は記号であらわされている。

p.5: 暦の読み方の説明。いわばマニュアル。

p.6: イングランド王の系譜。

pp.7-18: 毎月のカレンダーと天気予報。毎月 1 頁で、24 頁中の半分を占める。冒頭に 6 行程度の詩形式の一節があり、身の回りの出来事や気象の変化について語っている。

pp.19-24: 日食情報。裁判や地元の会議の開催日などの情報。道路情報も含む。

写真を詳細に確認すると、ことわざは、3 ページ以降の主要な情報以外の部分（特に毎月のカレンダーの余白部分）に、所狭しと押し込められるように書き連ねられていることがわかる。

『貧しいリチャードの暦』は毎年 1 万部以上の売り上げにより、フランクリンに初期の富と知名度を与えた。しかし、上記写真のようないわば安価なパンフレットという形で印刷され、毎年新しいものに更新され古いものは廃棄されるという暦の特殊性のためか、オリジナル版は散逸し、後にはコレクターが売買するような希少なものとなっていったようである。Library of Congress での“Poor Richard”の検索結果を基にすると、各地に散らばった 26 年分の『貧しいリチャードの暦』の全体像が 1 つに集められたのは、1890 年出版の *The prefaces, proverbs, and poems of Benjamin Franklin, originally printed in Poor Richard's almanacs for 1733-1758.*（Collected and edited by Paul Leicester Ford）が最初のようである。[8]

その後、Yale University が 1954 年に“The Papers of Benjamin Franklin”プロジェクトを立ち上げ、Library of Congress, National Archives and Record Administration, American Philosophical Society, Rosenbach Foundation 等々多くの機関の協力の基、現存するフランクリンの著作全てを刊行し続けている。1959 年の *The Papers of Benjamin Franklin* 第 1 巻を皮切りに、2019 年の第 43 巻までが出版され、今後第 47 巻までの出版が予定されている。これには『貧しいリチャードの暦』26 年分すべてが含まれ、現在読者が入手可能な最もオリジナルの内容に近いものである。[9]

ただしここで注意すべきは、Ford 版も Yale 版も、オリジナル版の天気予報・惑星の動き・日食情報などの気象や占星術にかかわる部分を省いていることである。同様にイングランド王の年譜や裁判所開催日等のデータも含まれない。一方、最大の特徴であることわざが書かれた「カレンダーの余白」部分はもちろん、これまで『貧しいリチャードの暦』と題されたものには含まれていなかった「読者へのメッセージ（上記写真の p.2）」や毎月のカレンダーの前文に当たる「詩形式の一節(上記写真の pp7-18 の上の部分)」まですべてが掲載されている。つまりフランクリン自身の考えを表す部分が網羅されていると判断でき、これまでの『貧しいリチャードの暦』から抜粋されたことわざ以上のものが見いだせる可能性がある。

３．1733 年版のことわざ一覧

本稿では『貧しいリチャードの暦』の全体像を明らかにするための第１歩として、*The Papers of Benjamin Franklin　Vol.1:1706-34*　“Poor Richard, 1733”を分析対象とし、読者へのメッセージの要約を加えたうえで、毎月のことわざを全て取り出していく（英文の綴りは原本のまま）。[10] 日本語で対応することわざがある場合はそれを「」で、無い場合は筆者の和訳を（）で示す。また、そのことわざ（類似したものも含めて）が英語のことわざ辞典類に掲載されている場合は、辞典の略語を記し、必要に応じて初出年代などの情報を加える。今回確認した辞典類は以下の３冊である。

・Mieder, Wolfgang, ed. *A Dictionary of American Proverbs.* Oxford UP, 1992. (*DAP*)
・Speake, J. and John Simpson, eds. *Oxford Dictionary of Proverbs 6th Edition*. Oxford UP, 2015. (*ODP*)
・Wilson, F.P., ed. *Oxford Dictionary of English Proverbs 3rd Edition.* Oxford UP, 1970. (*ODEP*)

日本語のことわざとの対応は、大塚高信・高瀬省三共編『英語諺辞典』（三省堂、1976）、澤田治美監訳『オックスフォード英語ことわざ・名言辞典』（柊風舎、2017）、三省堂編『新明解　故事ことわざ辞典』（2016）、時田昌瑞編『岩波ことわざ辞典』（岩波書店、2016）を利用し確認する。定着した日本語のことわざではないが和訳が掲載されている場合は、編者名を入れて記す。

また、筆者の和訳が不正確な可能性がある場合は「和訳未確定」、上記のどの辞典類にもことわざが掲載されていない場合は「辞典類掲載なし」、『貧しいリチャードの暦』が初出でその後の文献にも記載情報がある場合は「〇〇などに記載あり」と記す。

尚、便宜上作品中に出てきた順にことわざに番号を付す。

＜読者へのメッセージの内容の要約＞

うだつの上がらぬ私(Richard)は、妻におしりを叩かれて、お金を稼ぐため暦づくりを始めた。友人でもある Titan Leeds が商売敵だが、私の計算によると彼は今年の 10 月 17 日に亡くなる予定だ。私が彼の商売を引き継ぐので、どうかこの暦を買ってください。[11]

＜１月のカレンダーから＞

(1) Never spare the Parson's wine, nor the Baker's pudding.

（牧師のワインとパン屋のプディングは他人にはやるな。）和訳未確定。

DAP：『貧しいリチャードの暦』が初出。その後 *Whiting* などに記載あり。[12]

(2) Visits should be short, like a winters day.

（訪問は冬の日の如く短くすべし。）

DAP：『貧しいリチャードの暦』が初出。その後 *Stevenson* などに記載あり。

(3) Lest you're too troublesom hasten away.

（面倒くさけりゃ、さっさと逃げろ。）和訳未確定。辞典類掲載なし。

(4) A house without woman and Firelight, is like a body without soul or sprite

（女性と暖炉の火のない家は、魂を持たない体のようだ。）

DAP：『貧しいリチャードの暦』が初出。その後 *Stevenson* などに記載あり。

(5) Kings and Bears often worry their keepers.

（王様とクマは飼育員泣かせ。） 大塚：国王と熊はしばしば番人を心配させる。

DAP：初出は *Scottish Proverbs*（Fergusson,1595)。『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

＜２月のカレンダーから＞

(6) Light purse, heavy heart.

（財布が軽いと心が重い。） 大塚：貧ほどつらいものはない。

DAP：A light purse makes a heavy heart.で掲載され、初出は *Eclogues*（Barclay, 1514)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP：初出は同上。『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

(7) He's a Fool that makes his Doctor his Heir.

（医者を相続人にするほど馬鹿なことはない。）

大塚：出入りの医者を相続人にするものは愚人である。

DAP：初出は *Proverbs of Erasmus* （1539)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

(8) Ne'er take a wife till thou hast a house (and a fire) to put her in.

(家(暖炉)を持つまで嫁とるな。)

大塚：Before thou marry be sure of a house wherein to tarry. の変化形として掲載。

結婚する前に住む家を確保せよ。17C 後半。

(9) Love well, whip well

（よく愛し、よく鞭打て。） 辞典類記掲載なし。

「あめとむち」、「可愛い子には旅をさせよ」などが対応する可能性ありか。

＜３月のカレンダーから＞

(10) Hunger never saw bad bread.

「空腹にまずいものなし。」

DAP：初出は *Paroimiografa*（ Howell, 1659）。フランス語のことわざ。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

＜４月のカレンダー＞

(11) Beware of meat twice boil'd, and an old foe reconcil'd.

（二度煮た肉と仲直りした昔の敵は要注意！）

大塚：Take head(or Beware) of a reconciled enemy. 和解した敵には用心せよ。『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

(12) Great Talkers, little Doers.

「口叩きの手足らず。」「口自慢の仕事下手。」（三省堂）

DAP：初出は *Ship of Fools* (Barclay, 1509)。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

三省堂：英文は　A long tongue is a sign of a short hand.

大塚：大ほら吹きの無為無能。能なしの口たたき。

(13) A rich rogue, is like a fat hog, who never does good til as dead as a log.

（金持ちのならず者と太った豚は、死んで丸太になるまで役立たず。）

ODEP に類似のことわざの掲載あり。The hog is never good but when he is in the dish.

(Mascall, *Government Cattle*,1627).

大塚：類似のことわざの掲載あり。Like a hog, he does no good till he dies.

(14) Relation without friendship, friendship without power, power without will, will witho[ut]

effect, effect without profit, and profit without vertue, are not worth a farto.

（友情のない関係、力のない友情、意思のない力、効果のない意志、利益のない効果、徳のない利益はどれも価値がない。）和訳未確定。辞典類掲載なし。

＜５月のカレンダー＞

(15) Eat to live, and not live to eat.

「生きるために食え、食うために生きるな」。

DAP， *ODP*， *ODEP*：ソクラテスの言葉として伝わる。キケロ、モリエール等引用多数。*ODEP* のみ『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

(16) The favour of the Great is no inheritance.

大塚：国王の寵愛は相続財産ではない。

ODEP：類似のことわざあり。Great men's favours are uncertain.

（ 初出：Withals, *A short dictionary most profitable for young beginners,* 1584）

(17) Fools make feasts and wise men eat 'em.

（愚か者がご馳走を作り、賢者がそれを食べる。）

大塚：平二が瓜を作れば源太が坐してこれを食らう。

ODP：類似のことわざあり。Fools build houses and wise men buy them.

（愚か者が家を建て、賢者がそこに住む。）

(18) Beware of the young Doctor and the old Barber.

（若い医者と年寄りの床屋には気をつけろ。）

大塚：床屋は若いのが良く、医者は年を取ったのが良い。

DAP：初出は Sanford, *Garden of Pleasure*, 1573。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP：類似のことわざあり。Young barber and an old physician.（初出、1573）.『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

(19) He has chang'd his one ey'd horse for a blind one.

（片目の馬を、盲目の馬に乗り換える。） 和訳未確定。辞典類掲載なし。

(20) The poor have little, beggars none, the rich too much, *enough* not one.

（貧乏人はほとんど持たず、物乞いは何もなく、金持ちは持ちすぎる。ちょうど良い者はいない。）

DAP：ことわざの掲載のみ。『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

＜６月のカレンダー＞

(21) After 3 days men grow weary, of a wench, a guest, and weather rainy.

（娘と客と雨の日は、３日で飽きる。）

大塚：三日たつと人は女・客・雨にあきあきする。16C 後半。

(22) To lengthen thy Life, lessen thy Meals.

（長生きするなら、食減らせ。）

DAP：初出は『貧しいリチャードの暦』。その後 *Stevenson* などに記載あり。

(23) The proof of gold is fire, the proof of woman, gold; the proof of man, a woman.

（金の真価は火をつけりゃわかり、女の真価は金で測り、男の真価は女でわかる）

和訳未確定。辞典類掲載なし。

14 世紀頃より、Proof of the pudding is~. という表現は多出。すべてに記載あり。

(24) After feasts made, the maker scratches his head.

大塚：ご馳走をしたあとで（困り果てて）頭を掻く。

（和訳があるがことわざの意味は不明確。）

＜７月のカレンダー＞

(25) Neither Shame nor Grace yet Bob

（恥でも美徳でもない、bob だ。）和訳未確定。　辞典類掲載なし。

(26) He that lies down with Dogs, shall rise up with fleas.

「朱に交われば赤くなる」（犬と一緒に寝ると、起きた時にはしらみだらけ。）

DAP：初出 Sanford, *Garden of Pleasure*, 1573。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODP：初出同上。『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

ODEP：ことわざの掲載のみで説明なし。

(27) A fat kitchin, a lean Will.

大塚：主婦が肥えれば、遺言はやせる。家の身上はかかでもつ。

DAP：ことわざの掲載のみで『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

(28) Distrust and caution are the parents of security.

（不信と警戒は安全の親。）

DAP：Wise distrust is the parent of security. Fuller, *Gnomologia*, 1732.

『貧しいリチャードの暦』の１年前に出版されていて、フランクリンが読んでいた可能性高い。

(29) Tongue double, brings trouble.

（ 二枚舌は災いのもと。）

DAP：初出は、*Avian*（translated by Caxton, 1484）。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

＜８月のカレンダー＞

(30) Take counsel in wine, but resolve afterwards in water.

（飲んで話して、しらふで決める。）

DAP：初出は『貧しいリチャードの暦』。

ODEP：類似のことわざとして、Counsels in wine seldom prosper. Fuller, *Gnomologia*, 1732

(31) He that drinks fast, pays slow.

（早飲みの遅払い。）

DAP：ことわざの掲載のみで『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

(32) Great famine when wolves eat wolves.

（オオカミの共食いは飢饉の前触れ）

DAP：Wolves never prey upon wolves. の項目に 1733『貧しいリチャードの暦』が記載されているが、今回確認した 1733 版には表題以外の文言はない。Mieder の勘違いか。初出は Pettie, *Petite Palace of Pleasure*, 1576。

ODEP：類似ことわざあり。Hard winter when wolves eat another.　出典なし。

(33) A good Wife lost is God's gift lost.

（ 良妻を失うは、神の恵みの損失なり。）辞典類掲載なし。

(34) A taught horse, and a woman to teach, and teachers practising what they preach.

（調教済みの馬、これから調教できる女性、説教の練習をしている教師を選べ。）

和訳未確定。

大塚：Cheval fait et femme a faire（F. 仕込まれた馬とこれから仕込む女房）に由来する。『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

(35) He is ill cloth'd, who is bare of Virtue.

（ 似合わない服は徳のなさのあかし。）和訳未確定。辞典類掲載なし。

＜９月のカレンダー＞

(36) The heart of a fool is in his mouth, but the mouth of a wise man is in his heart.

（ 愚か者は思いを口に出すが、賢者は心のうちにしまっておく。）

大塚：知るものは言わず、言うものはしらず。

DAP：初出は *Dictes and Sayenges of Philosophirs*, translated by Rivers, 1477。

『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

(37) Men and Melons are hard to know.

（ 人間とメロンは割ってみるまでわからない。）

DAP：『貧しいリチャードの暦』が初出。

大塚：A melon and a woman are hard to be known. 和訳なし。

(38) He's the best physician that knows the worthlessness of the most medicines.

（ 薬が効かないことを知っている医者こそ最高だ。）

DAP：『貧しいリチャードの暦』が初出。

(39) Beware of meat twice boil'd, and an old Foe reconcil'd.

２回目の登場。（11）参照。

(40) A fine genius in his own country, is like gold in the mine.

（ 自国の天才、鉱山の金。）辞典類掲載なし。

(41) There is no little enemy.

大塚：小敵と見て侮らず。

DAP:初出　Chaucer, Tale of Melibee, 1386.『貧しいリチャードの暦』の記載なし。

ODP：初出同上。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

ODEP：初出同上。『貧しいリチャードの暦』の記載あり。

＜10 月のカレンダー＞

(42) He has lost his Boots but sav'd his spurs.

（ブーツなくして拍車が残る。）和訳未確定。辞典類掲載なし。

(43) Cheese and salt meat, should be sparingly eat.

（チーズと塩漬け肉はほどほどに。）

DAP 掲載：『貧しいリチャードの暦』が初出。その後 *Stevenson* などに記載あり。

(44) Doors and walls are fools paper.

（ドアと壁は愚か者の壁紙。）和訳未確定。

大塚：A (white) wall is a fool's paper. （白壁は愚人の紙である。）ラテン語に由来。

(45) Anoint a villain and he'll stab you, stab him and he'l anoint you.

（ 悪党を聖者にすれば、やつはあなたをやっつけ、悪党をやっつければ、やつはあなたを聖者にする。）和訳未確定。

大塚：馬鹿と餅には強く当たれ。

(46) Keep your mouth wet, feet dry.

（ 口は湿らせ、足は乾かせ。）　大塚：頭寒足熱

＜11 月のカレンダー＞

(47) Where bread is wanting, all's to be sold.

大塚：パンに事欠く場合は、全てを売らねばならない。「貧すれば緞子。」

(48) There is neither honour nor gain, got in dealing with a vil-lain.

（悪党を相手にしても名誉にも利益にもならない。）辞典類掲載なし。

(49) Snowy winter, a plentiful harvest.

（雪多い冬は豊作）

DAP：『貧しいリチャードの暦』が初出。その後 *Whiting* などに記載あり。

(50) Nothing more like a Fool, than a drunken Man

（酔っ払いほど愚かなものはない）辞典類掲載なし。

＜12 月のカレンダー＞

(51) God works wonders now and then

（ 神は時に奇跡を起こす。）辞典類掲載なし。

(52) He that lives carnally, won't live eternally.

（ 肉欲で生きる者は永遠には生きられぬ。）

DAP：『貧しいリチャードの暦』が初出。その後 *Stevenson* などに記載あり。

(53) Innocence is its own Defence

大塚：潔白な人はおのれ自身が身を守る。

DAP： It is easy to defend the innocent. （初出 Florio, *Firste Fruites*, 1578）として掲載されている。『貧しいリチャードの暦』もこの項目で説明されているが、今回確認した 1733 版には表題以外の文言はない。Meider の勘違いか。

(54) Time *eateth* all things.

（ 時はすべてを食い尽くす。）辞典類掲載なし。

(55) The Times are chang'd, our times *drink* all away.

（ 時代は変わり、われらの時代は全てを飲み干した。）和訳未確定。辞典類掲載なし。
(56) Never mind it, she'l be sober after the Holidays.
（ 心配無用。彼女は休暇が終わればしらふに戻る。）和訳未確定。辞典類掲載なし。

４．1733 年版『貧しいリチャードの暦』のことわざから見えるもの

冒頭にあげたように、フランクリンは『フランクリン自伝』の中で、「余白をことわざのようなもので埋めた」と述べ、『貧しいリチャードの暦』におけることわざの役割を強調している。また一方で、「これらのことわざは、多くの国と多くの人の知恵を基にしている。」(*Autobiography*, 79)と、すべてが独自のものではないことを認めている。さらに 1747 年版『貧しいリチャードの暦』では、「私は生まれながらの詩人ではない・・・他の人の素晴らしい文章があるのに、なぜ自分の良くない文を使う必要があるのか」(*Poor Richard* ,1747)と、自分の独自性を重要視しないような言葉も残している。1733 年版中のことわざの特徴をまとめることで、上記のフランクリンの言説にどの程度の信憑性があるのか確認する。

（1）ことわざの存在感

抽出したことわざ 56 のうち 1 つが重複していたため、1733 年版『貧しいリチャードの暦』のことわざの総数は 55 である。毎年このペースでことわざが含まれるとすると、26 編でおよそ 1400 という莫大な数にのぼることになる。また単語数という観点からみると、1733 版の原文全体の約 2000 語のうち 400 語は散文スタイルの「読者へのメッセージ」でことわざは含まれず、残り 1600 語のうちおよそ 620 語がことわざで占められている。「読者へのメッセージ」を除いて 2 分の 1 弱がことわざという結果からも、空白をことわざで埋めたというフランクリンの言葉以上に、『貧しいリチャードの暦』におけることわざの重要性が確認できる。

さらに、55 のことわざのうち 39 が、後のことわざ辞典類に掲載されており、フランクリンの言葉が、ことわざとして認識され継承されていると言えよう。

(2)ことわざの独自性

それぞれのことわざがフランクリン独自のものかどうかを確認するため、辞典類に記載されている初出情報を中心に 55 のことわざを分類すると次ようになる。

A. 初出が『貧しいリチャードの暦』と記載されているもの：12

そのうち 7 つは、後に様々なことわざ辞典類にも掲載されており継承されたことわざと言えよう。一方他の 5 つは、フランクリン以降に継承されている可能性が少ないの

かもしれない。

B. 初出が『貧しいリチャードの暦』以外のもの：14

C. ことわざ自体がどの辞典類にも掲載されていないもの：16

D. その他：ことわざの掲載はあるが、初出情報や『貧しいリチャードの暦』についての言及がないもの、及び類似のことわざのみが掲載されているもの：13

この分類からフランクリン独自の表現であると判断できるのは、A:初出が『貧しいリチャードの暦』と明記されているもの(12)である。C:ことわざ自体がどの辞典類にも掲載されていないもの（16）は、後世に伝えられなかったと思われるが、表現自体はフランクリン独自のものである可能性が高いと判断できる。するとAとC合わせて28がフランクリン独自のことわざと推察できる。D:その他（13）は、情報量不足であるため、今回は独自のことわざには含めず詳細を今後検討する。

一方、B:初出が『貧しいリチャードの暦』以外の14のことわざは、いわばフランクリンが他者から借りてきた可能性が高い表現といえよう。この14という数字が『貧しいリチャードの暦』のことわざの独自性とどうかかわるかは、1年分の暦の分析では不十分なので今後の分析にゆだねたい。

5．おわりに

1733年版『貧しいリチャードの暦』のことわざの抽出作業を通して、『貧しいリチャードの暦』全体像把握のために、今後取り組むべき課題が明らかになった。第一に、26年分のことわざを網羅的に取り出し分析することである。1年分の暦だけで55のことわざが抽出できたということは、全体では膨大な数に及ぶと想像できるが、その膨大なことわざ群を分析することで、『貧しいリチャードの暦』全体に占めることわざの重要性やフランクリンの独自性、さらにはことわざの変遷を考察することが可能になる。

第二に、本稿では要約に留めた「読者へのメッセージ」や、触れなかったカレンダーの前文としての「詩形式の一節」の分析も不可欠な課題である。ところがこうしたことわざ以外の部分は、言葉の古さ、当時のユーモア作家の特徴としての意図的誤字の利用、印刷業界の裏話やジョークなどが絡み合い、個々のことわざ以上に理解しづらい。そしてそのためか、日本における『貧しいリチャードの暦』紹介の中で、ほとんど触れられてこなかったのが実態である。そこで、ことわざの以外の部分に見られる物語性や、ことわざ群との関係性を明らかにすることで、『貧しいリチャードの暦』全体の魅力をより鮮明にすることができるはずである。

本稿は『貧しいリチャードの暦』26 編中のわずか 1 編を分析・考察したに過ぎない。今後は続稿において、*Poor Richard's Almanack* 1734-1747, *Poor Richard Improved* 1748-1758 の全てのことわざを取り出し分析を進める。同時にことわざ以外の文や詩にも目を向け、これまで見えなかった『貧しいリチャードの暦』の全体像を明らかにする手がかりとしたい。

[注]

1. *Encyclopædia Britannica,* Online, 'Benjamin Franklin'
   本稿中の英文の日本語訳は、断りの無い限り筆者による。
2. Blair, Walter. *Native American Humor.* American Book, 1937. p.18.
3. 原文では、"proverbs" ではなく、あえて"Proverbial Sentences"と表現していて、フランクリンの言葉使いの巧みさを感じる。本稿ではフランクリンに倣って、「ことわざ」を広義の「ことわざ的なもの」と解釈して論を進める。
4. 日本における『貧しいリチャードの暦』の受容に関しては、拙論「ベンジャミン・フランクリンのことわざの魅力―福沢諭吉、マーク・トウェインとの比較を通して―」（ことわざ文化学研究 第二号 No.2 p.5） 参照。
5. *Wikipedia*, 'Almanac'
6. インターネットサイト Rare book Room：Benjamin Franklin より
   ここでは、Library of Congress や様々な博物館、また個人の収集から得られた、『貧しいリチャードの暦』ほぼ全編のオリジナル版の写真を見ることができる。(1735 年版、1749 年版を除く。)
7. フランクリンは、1748 年版『貧しいリチャードの暦』の読者へのメッセージの中で、「15 年間続けてきた形式を改良するため、毎月のカレンダーを 1 ページから 2 ページに増やし、全体を 36 ページにすることにした。」と述べている。タイトルも *Poor Richard Improved* と変更し、内容の変化もあるので、詳細は本稿の続編で考察する。
8. その後 1904 年に John Bigelow 編によるフランクリン全集 *The Works of Benjamin Franklin, in 12 vols.* が出版されたが、『貧しいリチャードの暦』は含まれていない。『フランクリン自伝』に関しては、この全集に含まれているのみならず、単行本が数多く出版されている。
   さらに、1964 年に Van Wyck Brooks 編、Norman Rockwell の挿絵で *Poor Richard; the almanacks for the years 1733-1758* が出版されている。内容自体は Paul Leicester Ford 編集のものと大きな差はないが、Rockwell の挿絵が楽しい。
9. *The Papers of Benjamin Franklin* は、現在第 37 巻までオンラインでも入手可能である。
   The Papers of Benjamin Franklin (franklinpapers.org)
10. 当時のアメリカのユーモア作家の特徴の一つが、'Phonetic misspelling' と呼ばれる妙な

綴りの多様である。発音に合わせた綴りや発話者の性格を表すための誤字を表すもので、意図的に利用されている。『貧しいリチャードの暦』にも数多くみられ、一見綴り間違いのように見えるが意図的なものである。

11. うだつが上がらず、妻の尻に敷かれている Poor Richard という暦作者の設定、同じく暦を販売している商売敵 Leeds の死の予言など、ユーモア溢れる特徴的な内容であるが、ことわざ的な表現は含まれないため、本稿では要約にとどめる。同様に、毎月のカレンダーの前にある詩形式の一説についても、直接ことわざを含むものではないため、分析対象には含めない。

12. 本稿では、本文中に記載した辞典類以外の引用文献の名称に次の略語を使用する。

Whiting：Whiting, Bartlett Jere. Ed. *Early American Proverbs and Proverbial phrases.* (Cambridge, Harvard Univ. Press, 1968).

Stevenson：*Stevenson, Burton. Ed. The Macmillan (Home) Book of Provers, Maxims and Familiar Phrases.* (New York, Macmillan, 1948).

［参考文献］

Blair, Walter. *Native American Humor.* American Book, 1937.

Franklin, Benjamin. *The Papers of Benjamin Franklin.* Edited by Leonard W. Labaree, Yale University Press, 1959-2019.

_____. *The prefaces, proverbs, and poems of Benjamin Franklin, originally printed in Poor Richard's almanacs for 1733-1758.* Collected and edited by Paul Leicester Ford, Putnam, 1889. Reprinted by Forgotten Books, 2012.

_____. *Benjamin Franklin: Poor Richard's Almanacks,* edited by Van Wyck Brooks, Paddington Press, 1976.

_____. *The Works of Benjamin Franklin*, edited by John Biglow, G.P. Putunam's Sons, 1904.

_____. *Wit and Wisdom from Poor Richard's Almanack*, edited by Kathy Casey, Dover Publications, 1999.

Lemay, J. A. Leo, and P. M. Zall, eds. *Benjamin Franklin's Autobiography: An Authoritative Text, Backgrounds, Criticism.* A Norton Critical Edition. Norton, 1986.

Mieder, Wolfgang, ed. *A Dictionary of American Proverbs.* Oxford UP, 1992.

Speake, J. and John Simpson, eds. *Oxford Dictionary of Proverbs 6th Edition.* Oxford UP, 2015.

Wilson, F.P., ed. *Oxford Dictionary of English Proverbs 3rd Edition.* Oxford UP, 1970.

澤田治美監訳『オックスフォード英語ことわざ・名言辞典』柊風舎、2017.

大塚高信・高瀬省三共編『英語諺辞典』三省堂、1976.
三省堂編『新明解　故事ことわざ辞典』2016.
時田昌瑞『岩波ことわざ辞典』岩波書店、2016.
松本真一・西川正身訳『フランクリン自伝』岩波文庫、1957.

［インターネットサイト］
・The Digital Franklin Papers: The Papers of Benjamin Franklin (franklinpapers.org)
・Rare Book Room
・Library of Congress：LC Catalog (loc.gov)
・Encyclopedia Britannica | Britannica
・Almanac - Wikipedia